見事な団結で楽しく
―主婦会が統一行事―

三池主婦会は六月二十四日の日曜日、熊本県飽託郡北部町の『菊南温泉観光ホテル』で統一行事を催し、約九十人の会員と来賓が参加し、日ごろの労苦を忘れて楽しい一日を過ごしました。つぎに参加者からの感想文をご紹介します。

日曜日だというのに、今朝は早く目が覚めました。外は雨が降りしきっています。統一行事が催される『菊南』という場所は、初めて行くところなので「どんなところかな?」と勝手に想像しながら早々と用意ができあがりました。いくつになっても子供の遠足と同じなのには、自分でおかしくなります。

どうやら雨も小降りになり、大牟田郵便局前を予定よりも少し遅れて九時過ぎの出発になりました。途中、早くものど自慢が始まり、得意の美声が次つぎと出るうちに一時間余りで『菊南温泉ホテル』に到着です。参加者が、バス二台もあるなんて、会員が少なくなったとはいえ、まだまだ心強いかぎりです。

会場の大広間は、冷房のきいた気持のよい部屋で、舞台の中央に『団結三池主婦会』の旗が掲げられ、忙しい中から出席して下さった来賓の方がたのあいさつで始まり、昼食の時間になりました。その会席弁当のおいしかったこと。渇いた喉を潤してくれたビールのおいしかったこと。おつまみや、天ぷら、チクラ、もろもろ何でもおいしくいただきましたが、団結の仲間と食べることで余計においしく感じるのでしょうか……。

余興が始まり『福笑い』に笑いころげ、ゲームに手をたたき、一生懸命に取り組む皆さんの顔の何と晴ればれとしていることでしょう。『石蕗の花合唱団』の貫禄も見事でした。踊りあり、演歌あり、と感心するほどに上手な方がたばかりなのには、いまさらながら驚かされました。

楽しかった統一行事、開会のあいさつに立つ平川会長

最後の『福引き』は、バラエティに富んだ豪華景品付きで、たとえば半年過ぎているので、あとの半年しか利用価値のないヘルス手帳、栓抜きなのか、栓の代用になるのか使途不明の品にはどう使用すべきかと、一時は協議の花が咲き賑やかでした。おまけに九十番台の番号は、読み上げさえもないというハプニングがあり、この番号札を持ち合わせた私など、大いにひがみましたが、景品は差別なく、いただくことができて安心しました。

帰りぎわに時間が足りなかったと会長がいわれていたように、あっという間に時間が過ぎた感じでした。こんなに楽しませていただいて準備・用意万端大変なことだったと思います。

執行部の皆さま、実行委員の皆さま、ご苦労さまでした。本当にありがとうございました。心から感謝いたします。帰りのバスの中で、梅雨どきでない時期に行けたら、もっと楽しいかも……、などと欲ばった思いが、ちらりと頭の隅っこをかすめました。

今後もこの見事な団結力で、健保改悪やトマホーク配備阻止など、労働者や弱い者いじめの自民党政府に立ち向かっていこうではありませんか。団結がんばろう。

（この項、小浜北班　谷崎信子・記）

海見

主婦会と私

東ブロック　大田圭子

私が主婦会にはいった動機はいたって簡単、三池労組員の主人と結婚したからです。

自分の意思ではいったのでもないし、子供も小さかったので、集会や動員、その他の行事にも最低限参加する程度で、あまり積極的ではなかったように思います。

でも、今では二人の子供も、上は小学二年生、下も今年から幼稚園に行くようになって、以前よりも手がかからなくなり、主人も協力してくれるので、二月から『石蕗の花合唱団』の一員として、月二回の練習に参加しています。

練習の合い間に、各地域の先輩の奥さんたちと談笑したりしながら、原さんの指導で一生懸命、かつ楽しくやっています。

歌の練習に行くようになってから、四月はメーデー前夜祭、五月は『三池の主婦の手記』出版記念会、六月は三池にまなぶ婦人集会と、いろいろな行事に参加する機会ができました。

そこで大勢の方がたのお話しを聞き、考えさせられたり感動したりで、私にとっては貴重な体験ばかりでした。

いま、世の中はだんだんと不安な情勢になりつつあるようです。私たち主婦一人ひとりが手をつなぎ合って、平和な日本、そして世界をつくっていく努力をしなければと思います。

今後も三池主婦会の一員として、諸先輩の皆さまの後について学んでいきたいと思います。

※　※

『三池の主婦の手記』
―新たな闘志を

東京　和気文子

暑さもひとしおの日々がつづいておりますが、その後、主婦会の皆さまはお元気でご活躍のことと存じます。『第十二回三池にまなぶ婦人集会』では、いろいろとお世話になりまして、ありがとうございました。

三日間のふれあい、それに、『三池の主婦の手記』を読ませていただいたことが重なりあい、またあらたな闘志をかきたてられました。ほんとうに、いい本を作っていただいたものだと感謝しております。

同封のお人形は、私が作ったものです。主婦会の事務机のそばにでも飾っていただけたらうれしいものですが……。

日本婦人会議東京都本部では、平和運動の一つとして、この千代紙人形づくりの講習会を開きながら（講師は会員）、「デモや街頭行動は無理だけど平和のために何かしたい」という層の人たちに運動の輪の中に入ってもらう手だてとしてすすめています。文化活動でもあり、財政活動でもあります。

はやくも、このお人形によって、イギリスのグリーナムコモンの座り込みの女性たちと、文通がはじまりました。訪ソする人たちにもおみやげがわりに数十組買っていただくとかして、とても好評です。

私のは、この十六日に講習会を受けて、まだ覚えたてのほやほやですから、あんまりすっきりしませんが、ちょっとすると手なれて、着物や帯の組み合わせ方によっては、すてきなのがづくるようになります。お菓子のつつみ紙など、和紙のものは捨てられなくなりますよ。

みなさまのご健康とご活躍を祈りつつ、ごきげんよう、ありがとうございました。

三池主婦会の皆さまへ

忘れぬ「三池」

佐賀　松本澄子

お懐しい三池の主婦会の皆さま、ご無沙汰いたしております。このたび『三池の主婦の手記』に収載していただき、私一生の思い出になることと心より厚くお礼申しあげます。

月日のたつのは早いもので、私が『姿見』に投稿してから二十四年になります。当時、五歳の娘が今では一女の母親となりました。

思い出せばあの頃のことが、頭の中を走馬燈のように走ります。

現在残っておられる主婦会の皆さまには、少人数の中で大変ご苦労が多いと思います。

三人の子供も、それぞれ成長して家庭を持ち、今は主人と二人のんびりとすごしています。私が協力できるのは、選挙ぐらいです。けれども一日として三池のことを忘れたことはありません。

主婦会の皆さま、一生懸命頑張ってくださいね。最後になりましたが、三池労組、主婦会のご発展をお祈りします。書籍小包みありがとうございました。

投稿

基準看護でサービス低下

三池じん肺会　山根重人

三井天領病院は、六月から基準看護病院として発足しました。

基準看護とは、完全看護が任務ですが、天領病院の場合は、赤字解消のための合理化の一環として実施され、看護に必要な人員を抑えながら、いかにして利潤を得るかというのが前提であり、患者無視の態度であることは明らかです。

基準看護病院では、入院患者三人について一人の看護要員がついているのが普通です。しかし、法の盲点に目をつけたのが三池鉱業所ではないでしょうか。

どこの病院でも、入院患者を食堂に行かせて食事させるというようなことは聞いたことがありません。呼吸困難な患者が食堂まで歩いて行くと食事がすすまないことがままあり、常識です。

患者が、病室での食事を要求すると、「あなたは便所には行くではないか」と言い、ときたま室外に出れば、「食堂に行けないのになぜ室外に出られるのか」と、いろいろな圧力やいやがらせをするとのことです。

これが三井資本の本質です。私たちは、三池闘争後から退職するまで長い間、差別と低賃金に苦しめられたことを生涯忘れることはできません。

会社幹部は、口を開けば有明鉱災害の損失を言います。しかし、なぜ災害が発生したのか、まったく反省していないのではないでしょうか。たった一人のベルト当番を配役しなかったことから数十億円という損失を出し、八十三人もの尊い生命を奪ったのです。

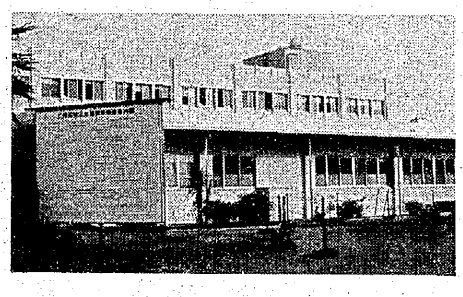
病院も同じことで、患者の生命よりもどうして利潤を生み出すかを優先させ、患者あっての病院ではなく、病院あっての患者という態度だと思います。

こんな態度では、患者が減少し、また合理化をしなければならなくなるのではないかと懸念します。

資本主義社会の中で、とくに軍拡路線を目ざす自民党政府は、健康保険法の改悪など、ますます弱者を切り捨てようとしており、弱者に対する風当たりが強くなることが予想されます。

したがって一人ひとりが、政治の流れをかえる努力をしないかぎり、救われる道はないと考えます。

病人が安心して療養できる社会になることを心から願っているものです。



天領病院の新館